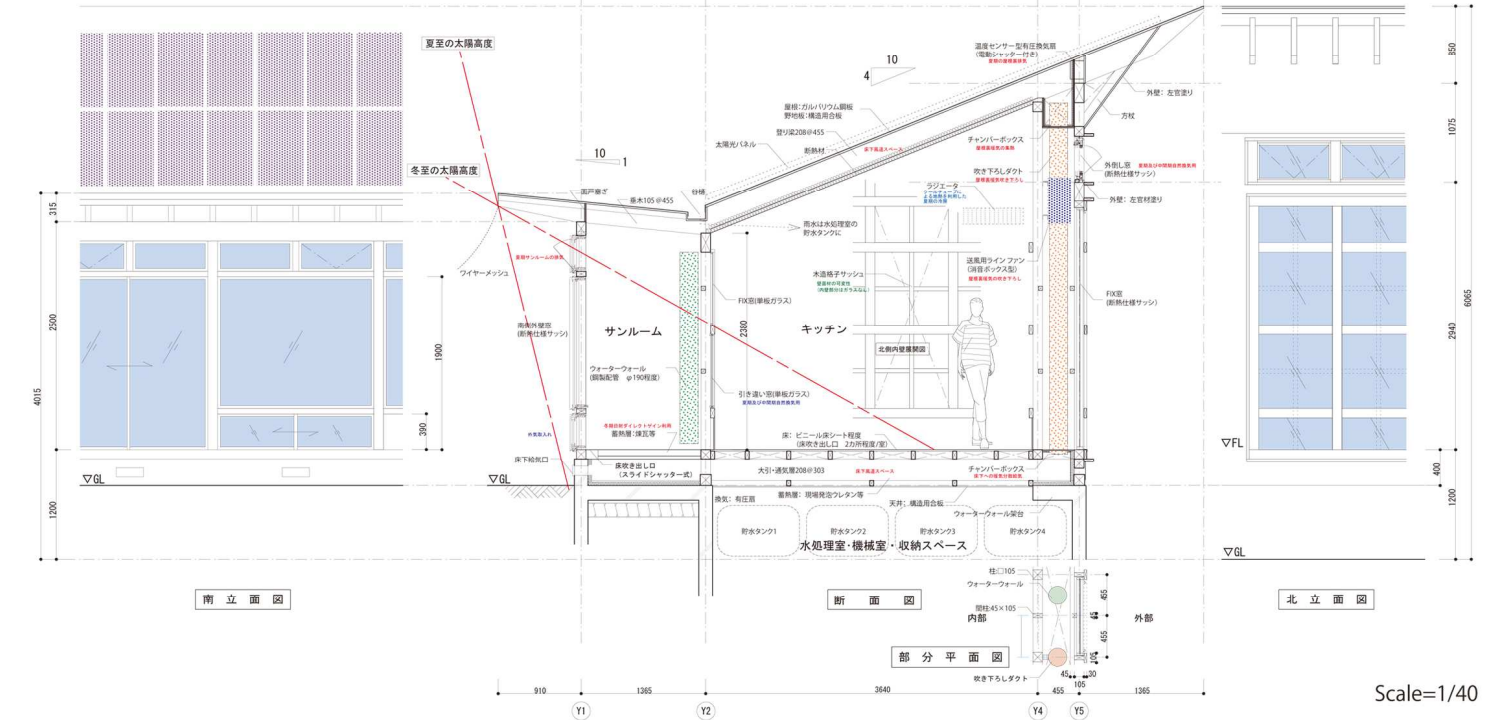
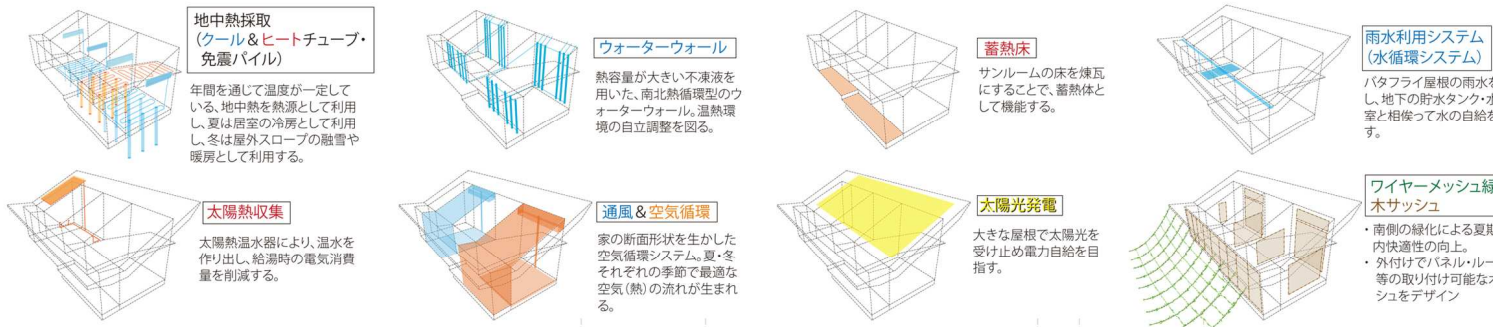
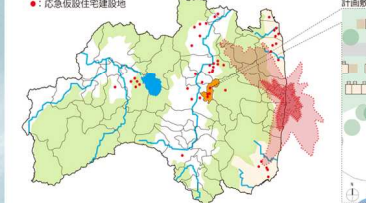




2020年のパッシブ住宅 二地域居住のためのロハスの家
ー仮設住宅からはじまるサスティナブルな計画ー



2011年の仮設住宅からの計画



2011年3月11日の東日本大震災及びその後の原発事故は、日本における本格的な自然エネルギー活用の幕開けである。この計画の出発点は、その原発事故で避難が長期化する可能性も高いとされる福島県内に立つ仮設住宅である。避難の長期化や時系列変化に備え、また過疎対策やまちづくりの視点からも「元の住まい」と「仮設住宅地」での二地域居住を視野入れ、代表者らが既に提案し実施予定である、ログハウス工法を用いウラインガルデン(菜園)を採り入れた仮設住宅建設(右図①②参照)の減築に伴う土地と材木等建設資材の再利用がポイントとなる。

ここに表現されている2011年の仮設住宅地に建つ2020年のパッシブ住宅は、エネルギー・食・水の自給(脱原発偏重・放射線量チェック)など、エネルギー面でも生活面でもサスティナブルな復興モデルの一つとして計画したものである。

